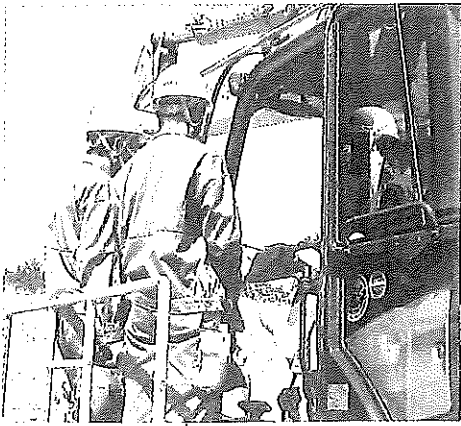


平田建設 i-Con 現場見学会

最先端の土木技術紹介

帯広農高生39人が参加

【帯広発】(株)平田建設(土幌、長谷川雅毅社長)は9日、帯広開建から受注した「帯広広尾自動車道大樹町北1線改良工事」の現場で高校生を対象としたi-Con construction 現場見学会を開催した。帯広農業高校の農業土木工学科2年生生徒39人が参加。ICT建機の試乗や重機のシミュレーター体験を通じ、最先端の土木技術を学んだ。



ICT建機の試乗や疑似体験する生徒たち

見学会は、建設業のイメージアップと若年者の入職促進を目的に、同社が昨年からの生産性と安全性を上げるICTを活用した現場で実施している。

開会式で、長谷川社長は建設業の魅力について「造ったものを、自身や仲間と分かち合えること」と説明。建設現場でi-Conの普及が進む中、「これからはタブレットを持って施工状況を確認し、運営していくことになる。そうになると土木技術者ではなく、土木エンジニアとしての仕事になってく

る」と変容する建設業の一端を紹介した。

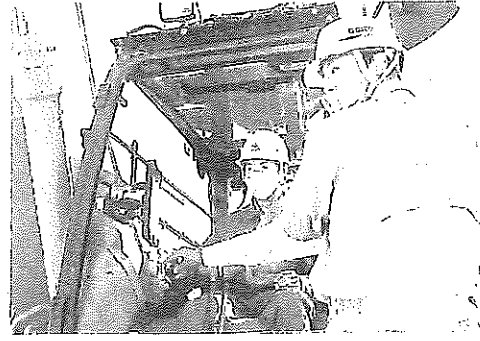
座学では、同工事の現場代理人で本年度開発局長表彰を受賞した平岡亮介氏がi-Conの目的と測量から施工までの工程を解説。日立建機日本(株)の寺田昭

仁氏はICT建機の仕組みとGPS精度の高さを取り上げ、「建機のロボット化が進むと、建設業はさらに希望の持てる業種になる」とアピールした。

見学会では、ドローンが飛行する中、2班に分かれてICT建機の試乗と重機のシミュレーターを体験。

試乗体験では、バックホーに装着したマシンコントロールのモニターの説明を受け、少し緊張した面持ちで一人ひとりの運転席に乗り込んだ。

生徒からは「公務員希望で入学したが、今では建設業の就職を希望している」などと、現場体験を通じた建設業の魅力を感じた様子を見せていた。



帯広農高生招き

i-Con見学会

平田建設

【帯広】平田建設（本社・士幌）は9日、帯広開建から受注した帯広広尾自動車道大樹町北1線改良の現場に帯広農高生を招き、i-Const ruction現場見学

会を開いた。生徒はICT建機の操縦も体験し、ICT施工の効果を学んだ。写真。

同高を対象とするi-Con現場見学会は昨年続き2回目。農業土木工学科2年生38人が参加した。

現場代理人の平岡亮介土木課長、建機を供給する日立建機日本北海道支社の寺田昭仁営業主任ICTエンジニアらが講師を担当。高い技術が必要な法面成形で、ICT建機がもたらす効果を解説した。

生徒はICT建機に乗り、機械が図面データに基づいて自動で制御される手応えも体験した。